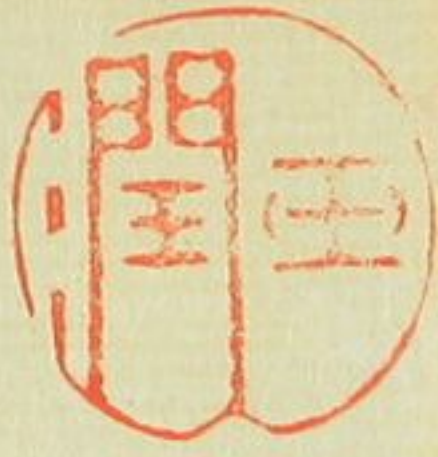


紀伊國名所圖會

三之卷上
名草郡





紀伊國名所圖會卷之三目錄

甘藪の製	雄の山	紀の園跡	紙園寺	力侍神社	楠本社	八王子社	徳社明神	星頭神社	高良神社	浄土寺
滝畑	雄の山	白鳥神社	山王社	坂上氏宅	川邊王子	八幡社	大屋都賀社	十五社明神	府中神社	齒觀音堂
中山王子	雄中山	山口王子	法新寺	山口驛舎	中村王子社	山名城跡	仲手洗池	紀の川跡	八幡宮	冬上寺回廊
音の母の跡	紀の園寺	小野寺	大屋神社	八王子社	午頭天王社	永山寺	永徳中小の支那	田中神社	松嶺寺	正法寺
										天心神社





甘蔗作

洛代明

さとうきび
うすれ
杖
日和

丹生神社	總社明神	明光寺	修永寺
千壽の原	日前宮七瀬渡	昌浦井	直江屋店圖
兵天岩	籤法藏	谷外	兒の巻
真川助左衛門	役行共母公存塔	藏王権現法	八王子社
伊也古神社	櫻井	南殿山大日寺	伊久雄社
圓部神社	一樂寺	圓明淨寺	
伏見山墓	南殿兵庫城跡	九頭神社	
辰吉社	九頭神社	兵財三社	

丹生神社 丹生山
 千壽の原 千壽山
 兵天岩 兵天岩山
 真川助左衛門 真川助左衛門殿
 伊也古神社 伊也古山
 圓部神社 圓部山
 伏見山墓 伏見山
 辰吉社 辰吉山
 總社明神 總社明神
 日前宮七瀬渡 日前宮七瀬渡
 昌浦井 昌浦井
 谷外 谷外
 藏王権現法 藏王権現法
 南殿山大日寺 南殿山大日寺
 圓明淨寺 圓明淨寺
 九頭神社 九頭神社
 兵財三社 兵財三社
 修永寺 修永寺
 直江屋店圖 直江屋店圖
 兒の巻 兒の巻
 八王子社 八王子社
 伊久雄社 伊久雄社

砂糖

唐の前まごの支那にありてある一まごなる時ありて
外國より獻りて其法をわして好くこれ法を
中光州菴筆記に見えたり吾東方は昔はありて
當府城の西たる隣雜貨屋内とて不雜貨を某るの法
製法は瓜はくしてててて田畑在田郡小豆冷村の
雜貨屋新田とて田畑小豆藤とてとて瓜製せし
ぶはしる

中山王子社 山莊畑村在小祝

中山王子社 山莊畑村在小祝
家御影 延喜紀 建仁元年十月日 辨覺去 延喜紀 建仁元年十月日 辨覺去 延喜紀 建仁元年十月日 辨覺去
概當王子次太子 辨覺去 延喜紀 建仁元年十月日 辨覺去 延喜紀 建仁元年十月日 辨覺去
延喜紀 建仁元年十月日 辨覺去 延喜紀 建仁元年十月日 辨覺去 延喜紀 建仁元年十月日 辨覺去

音の流

音の流 水源の雄のふり出流くたる谷川あり其
其やぐらなるお泉のふり出流くたる谷川あり其
て頗幽邃の貴ありある早歳とても枯渴とてく落る不
測をあして水常に溢たり
清少納言枕草紙 卷の二 十の段 日本後紀 桓武天皇廿三年十
月 幸紀伊國 必出真とて甲寅自雄山道還 日根行宮とて峯
中記と 嘖啖隣下 麻多輪 嘖啖隣

雄

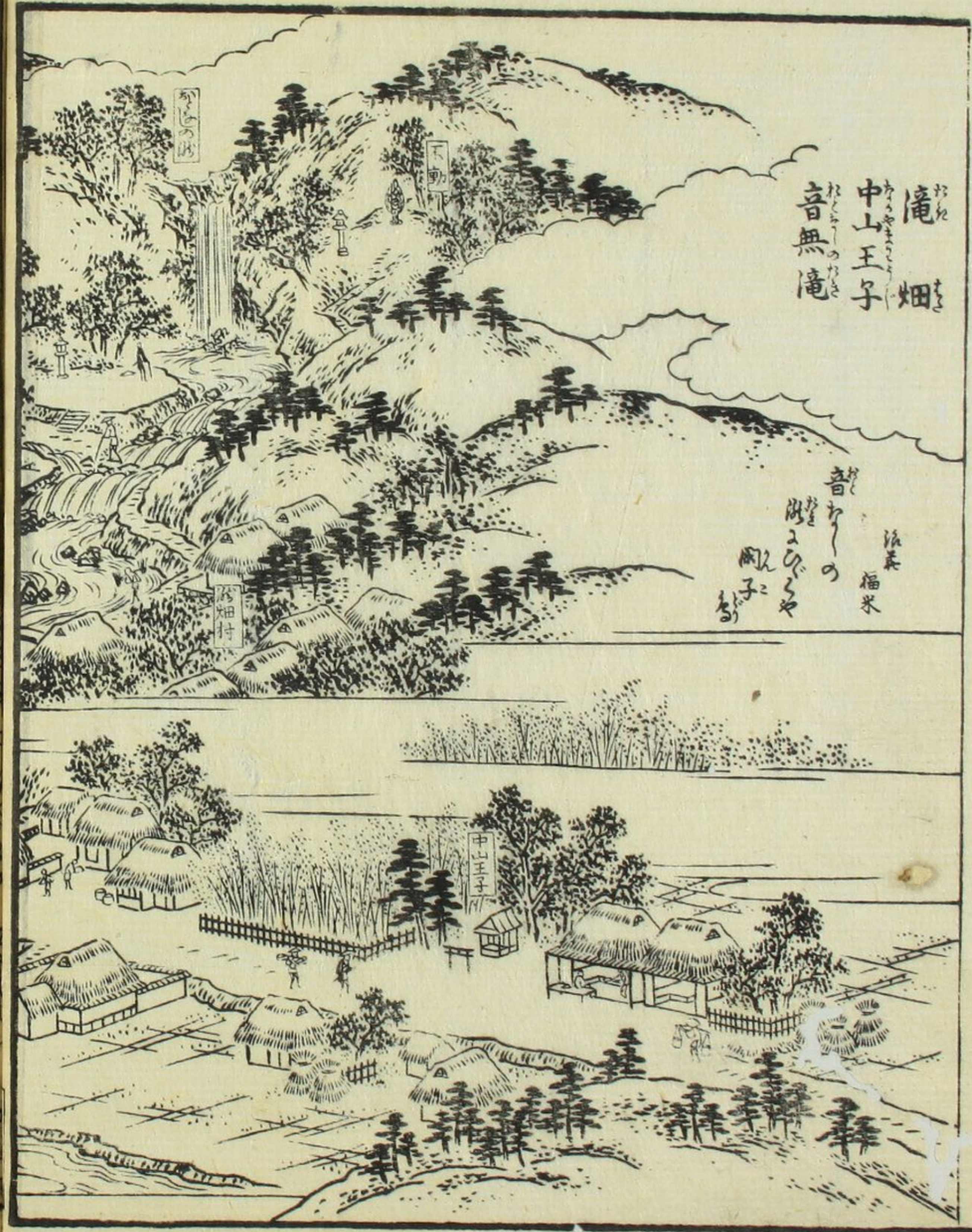
雄の心 日本後紀 桓武天皇廿三年十
月 幸紀伊國 必出真とて甲寅自雄山道還 日根行宮とて峯
中記と 嘖啖隣下 麻多輪 嘖啖隣



雲來雨去竟
茫然臨水登
山何處旋解
道九疑如黛
色今朝依舊
隔湘川

縣周南

湘川の
水
あそび
五雲



滝
中山王子
音無滝

音無の
福米
剛子

中山王子



平賀の金持は
まうてのうらな
竹のうらな
さうのうらな
おのうらな
おのうらな
おのうらな

山中の雄



紀の國趾

白鳥の國趾... 雄の山にありて南の麓にありて... 孝徳天皇大正二年... 紀伊の國趾

あつての君... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

名に一人... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

い... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

ゆ... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

ゆ... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

あ... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

な... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○袖中抄... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

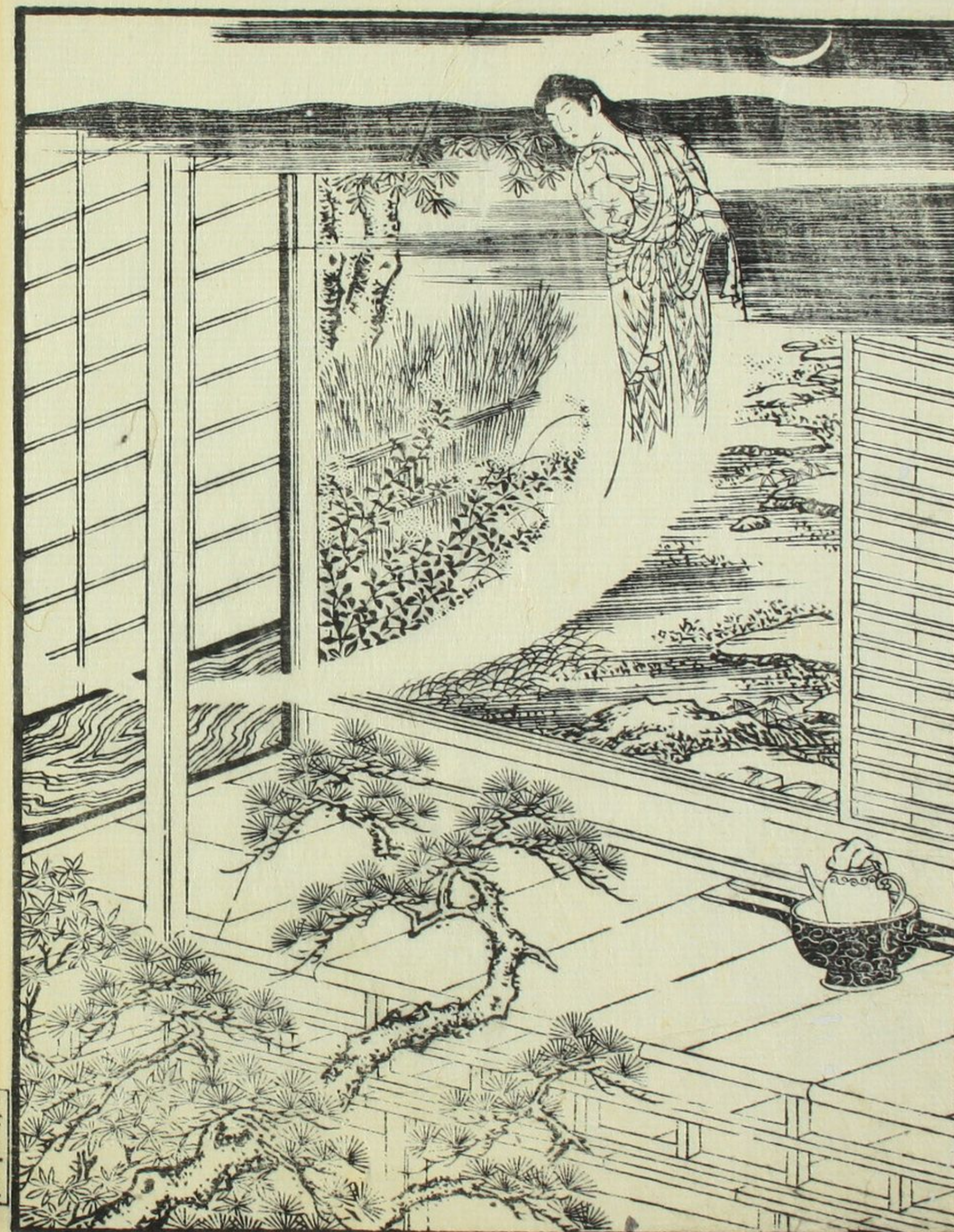
○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾

○今昔物語... 紀伊の國趾... 紀伊の國趾



ふらん家こそ由緒あるものありとて女の玉をいなりとわりこいしは地中のとけの
のせんあつたまひとていふべし

万葉

吾婁子之跡履求追去者本乃園守伊留鴨

金村

丈夫

おもとつたりなりもゆるほりひの川上の白とりの雲

鴨長明

玉子

こつれあし東のろの白をひの川のそりてなまらほ

俊頼

家集

あし紙の園守とてりんづもゆるゆめやすくあは

藤原光俊

長秋流藻

引くもよしの園守とつら春のつれとてちあやう

俊成

壬二

引くもよしの園守とつら春のつれとてちあやう

家隆

園守の紙子ひひあつたりたりのゆめ

其角

白鳥神社

湯屋の村の白鳥半山の西にありあはえなる白鳥といふ
其のりは幸記にあり

山口王子

旧山あり九十九王子の
其のりは幸記にあり

白鳥小野寺

日所あり 本尊地藏菩薩 立像三寸五分
○小野寺
小野寺あり 本尊地藏菩薩 立像三寸五分

○什寶小舟塔婆小町の本像 小町自筆の短冊
はきりありとて 木あり 小町ありはきりありとて
いさや長明の無明抄に考合され小町ありはきりありとて
○白鳥小野寺 小町ありはきりありとて

山口庄産神社

○祭る神 中野山王七社 祭る神
山口庄産神社 祭る神 中野山王七社 祭る神

三座あつて由緒内十ヶ村の産神なり毎年九月廿二日祭
れあり 社司の孫は由緒内十ヶ村の産神なり毎年九月廿二日祭

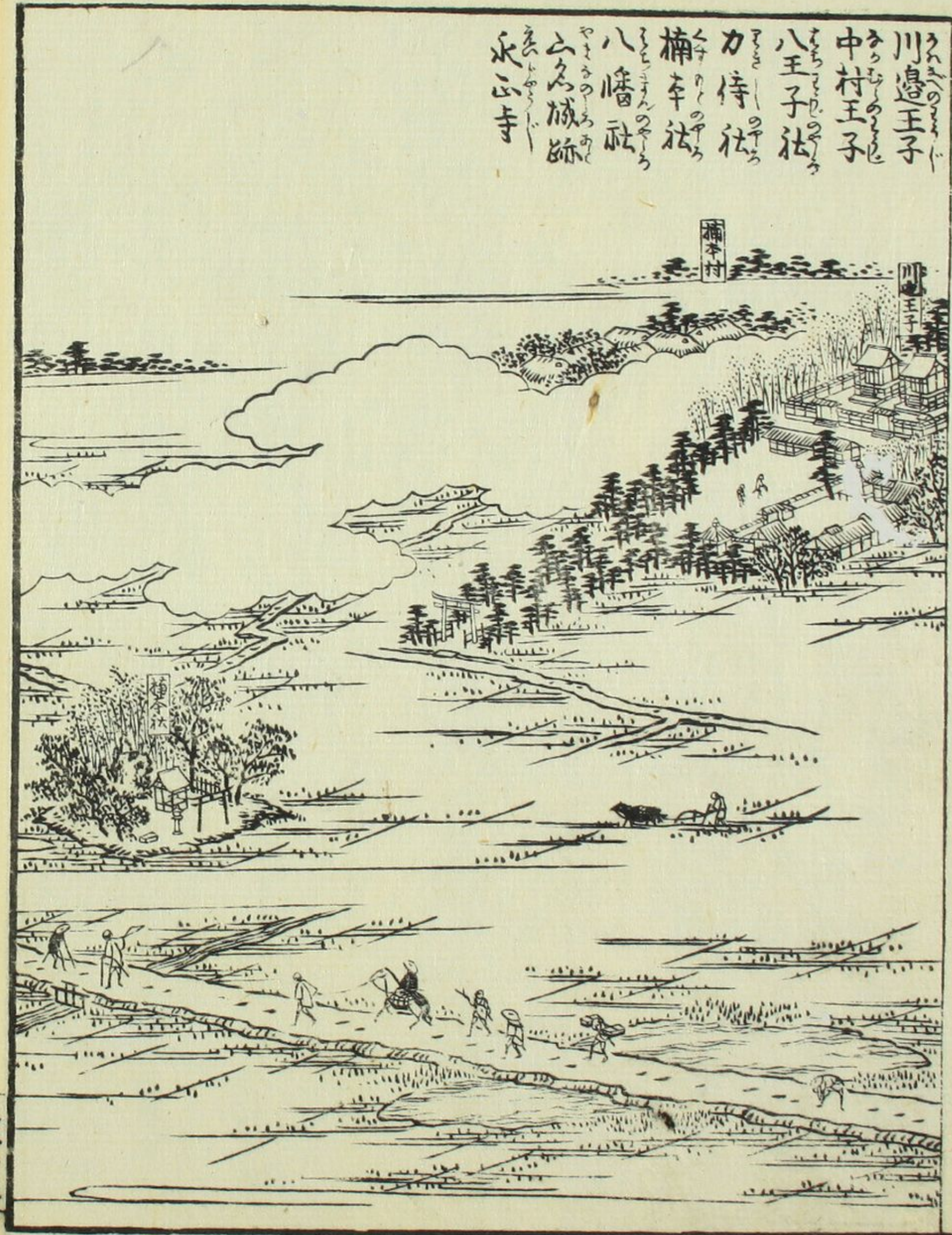
廢寺
 千年龍象
 寂荒草跡
 偏送梵咒
 唯樵唱祇
 園自鳥棲
 香厨烟火
 斷緝毘揀
 梁低上石
 前朝榜登
 臨問舊題
 服元雄



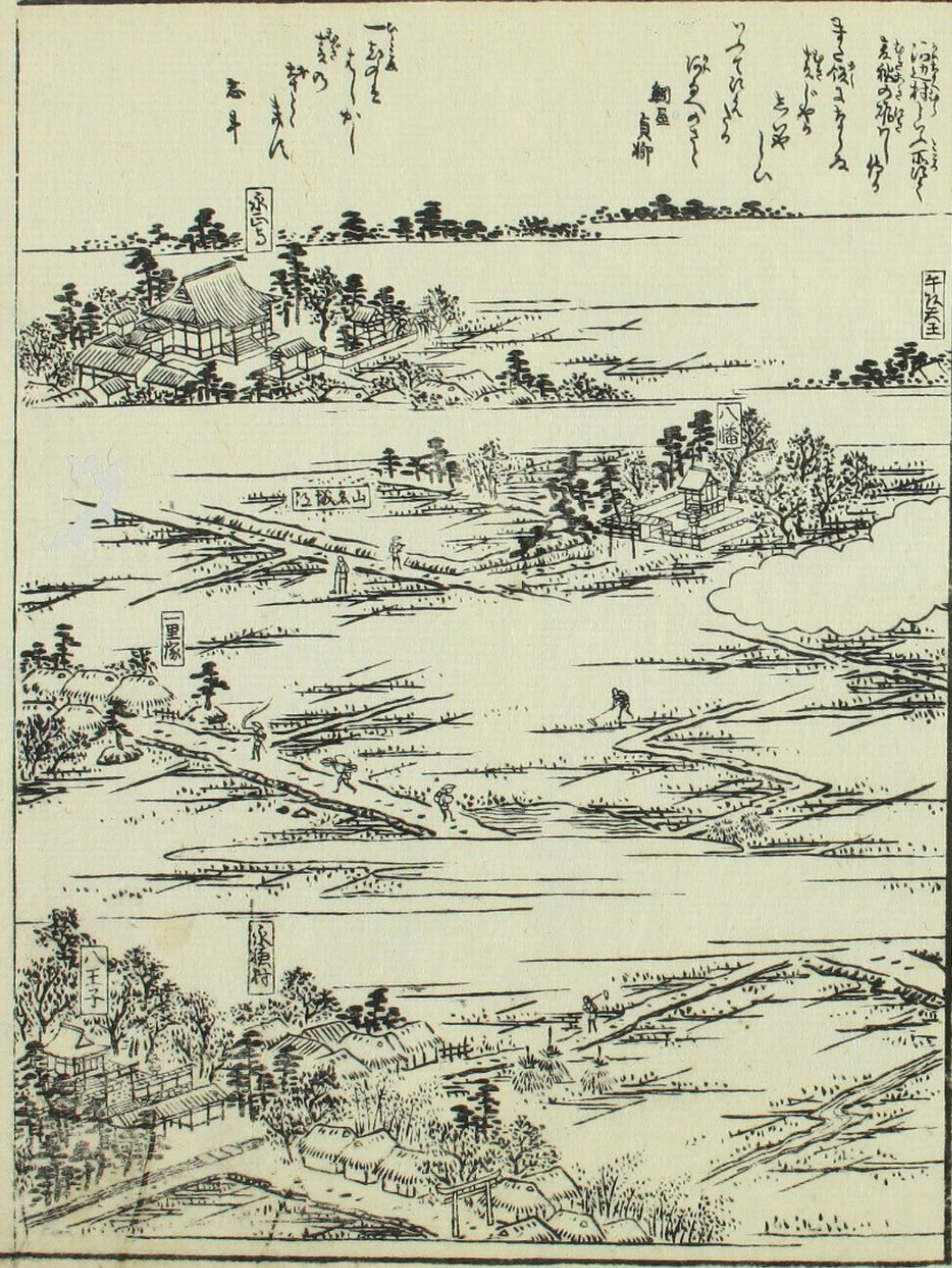
雄山
 白鳥社
 山呈子
 紀園古
 小町寺
 山王社
 法林寺
 土屋社
 祇園寺



川邊王子
 中村王子
 八王子社
 カ侍社
 楠本社
 八幡社
 山名城跡
 水心寺



水心寺
 山名城跡
 八幡社
 カ侍社
 楠本社
 八王子社
 中村王子
 川邊王子



命云〇一村の産神なりて毎歳九月十日を祀あり〇此社の北面より標樟樹の朽株より自然に
一叢の杜とせらるる其株今残りて厚く三十餘ありて安ふ穀千石のた本あり人
此社に大蜘蛛ありて此樹本より糸紡山へ果てり人民をさるるまきせしむ大同年中田村の家に
を懸けしむひに其糸を伐倒せしむ

八王子ノ社 永徳村 祭る神曆神ノ將軍 一村の産神にして毎歳
九月十九日を祀あり

八幡宮 往昔具教大陣根草創の御寺の内に法住と稱せり
初ノ宮ありて山名依理を夫義理墨跡の法守とん

山名依理を夫義理墨跡 日下西に是より西に法住のありて
宝永年中壘田と云ふ是より東に三町

永徳中小を夫散位藤原於はの末葉 古村の考家ありて
永徳の末葉の末葉

神波 宇田より長なり神波は回神戸あり 倭名抄云諸古御名の中に神戸
御表曰便別祭十萬群神仍定天社國社及神地神戸日垂仁帝御表曰故弓矢及横刃納

大屋都比賣神社 平田莊宇田 四時祭禮 三月十六日四月卯日六月朔日九月廿一日
十月末日十一月十六日此社のお生神あり

祭る神三座 中央 大屋都比賣神 大屋神 日本書紀曰素盞鳴尊之子名曰五十猛今大屋都比賣神
御表曰此三神亦本屋本屋即奉命於伊國也續日本紀曰文武天皇二年二月己未分遷伊太祁

楠塚 境内の松 祀神 御手洗 本社より西の御壺社 本社の前敷の内より

十五社の社あり 宇田八幡宮 若宮八幡社 兵財天社

大和御前社 御後納山 其後伊之曾神御津御津分遷あり

抑當社大屋都比賣命とすもふいぬ郡山東庄に坐を伊太祁曾を神

の御妹神はまはして兄命と曰く樹木種と矢より持りりて此國よ

播一多の御法はははみ故ふまの名も木の國といふ 元天皇の御勅小園て記の音の

夫よりて大八洲國中よりく海柱多いて野も山も青く草本の世

なる此御神の御功あり宮敷民屋まで材木を用いて造ることをりり

大屋て御名の負ひ多りて上下も崇致やははして人皇七十三代堀川

天皇實治二年四月慈野三山御幸ちをまに内當社も御奉幣り其後長

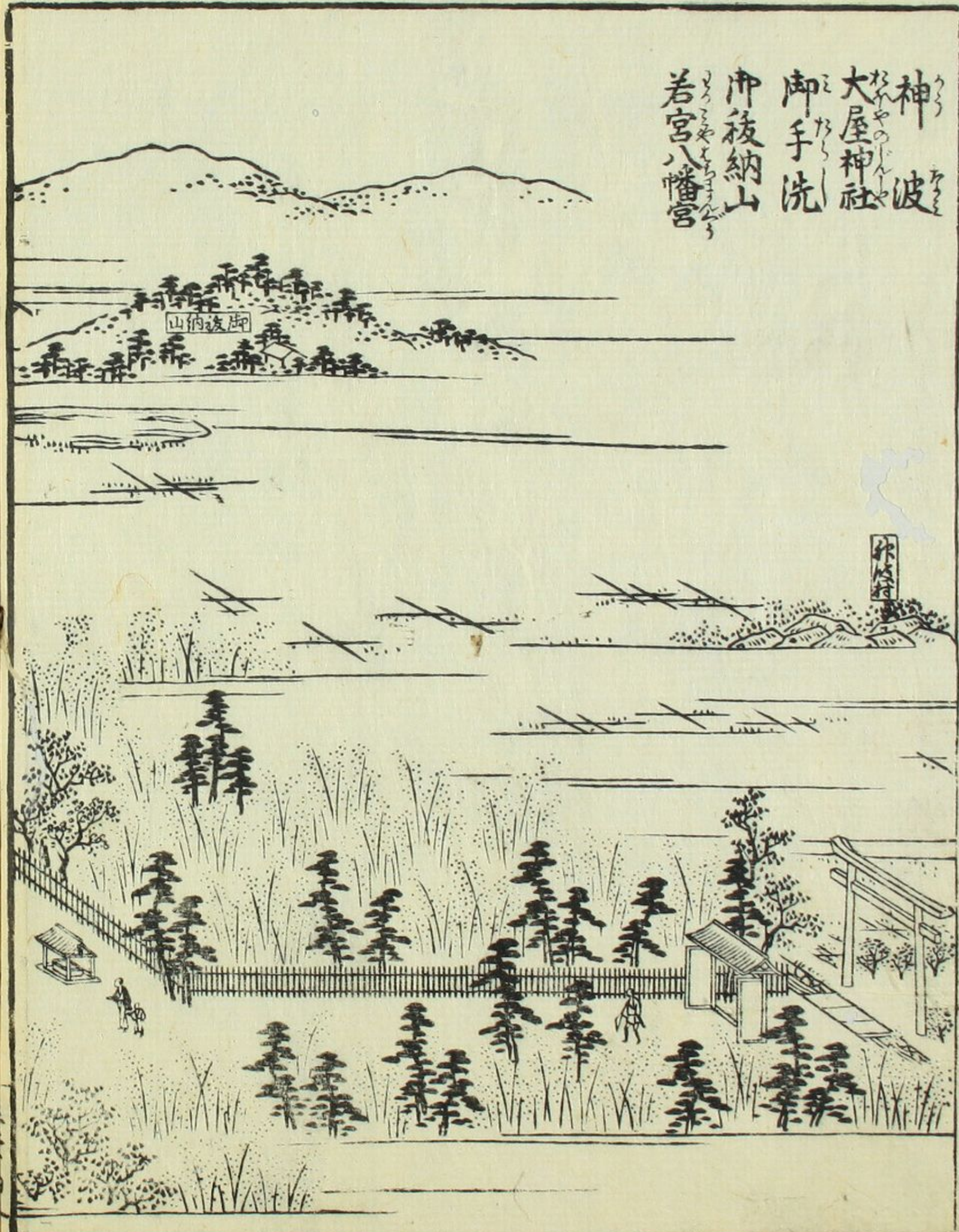
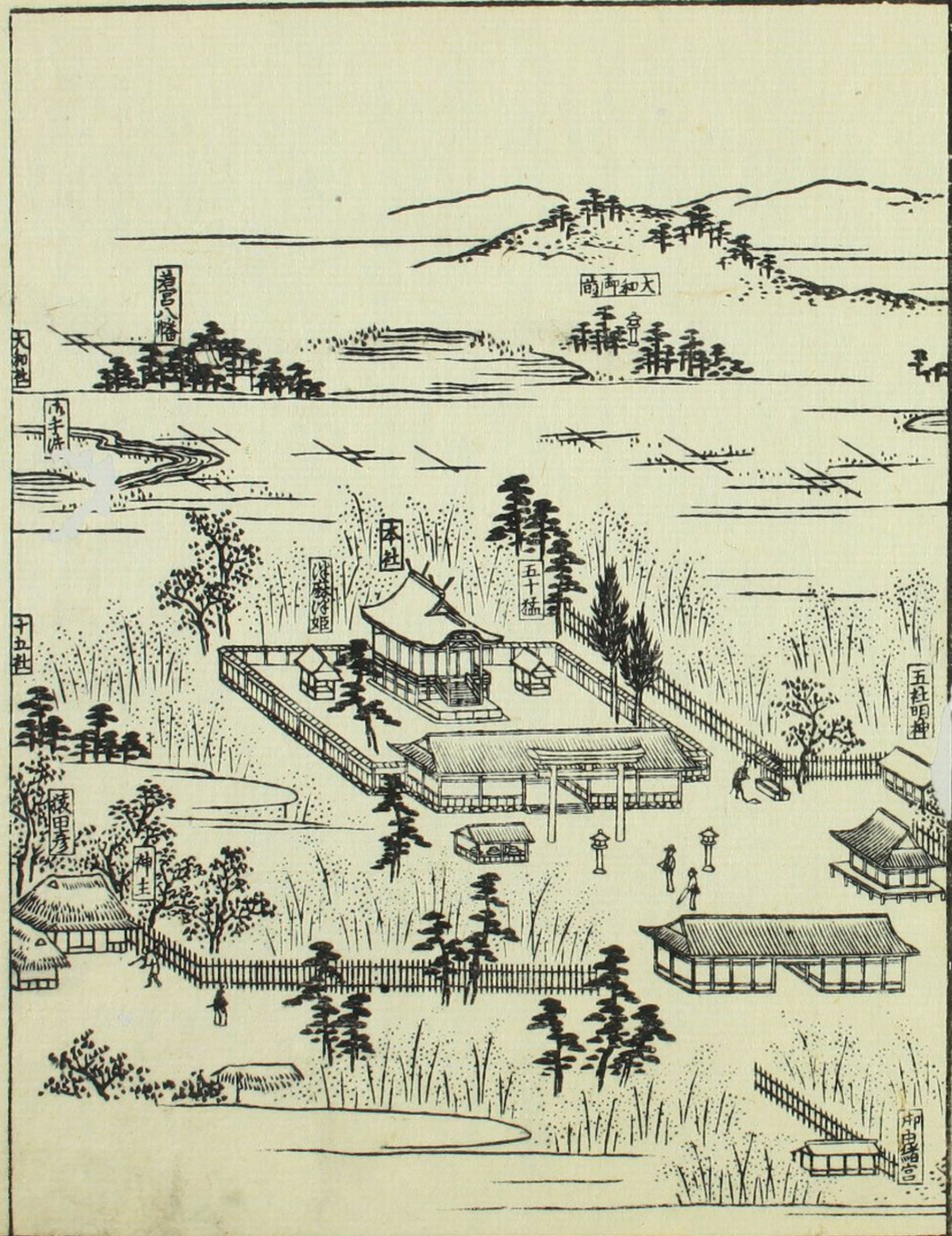
治元年神田十八丁社地五丁四面御寄附りさやひぬかひに社にの社敷

きしむに末社を基く昼の終日巫祝の終の声淨くして耳と裏せね

夜もどめく常燈の光煙として眼と奪ふにも輪負り宮居りも應

永の火の兵隊を羅して社に残り鳥有と有り僅か其十が二と存と云

當社の祝家赤良氏大屋彦よりお債して今にまで八十三代連綿り



神波
大屋神社
御手洗
御納山
若宮八幡宮

休足山永正寺

休足山永正寺

休足山永正寺

休足山永正寺

休足山永正寺

總社明神

總社明神

總社明神

多る所の神はぬぐうあだ

多る所の神はぬぐうあだ

十五社明神社

十五社明神社

紀の川

紀の川

紀の川

の巴

の巴

の巴

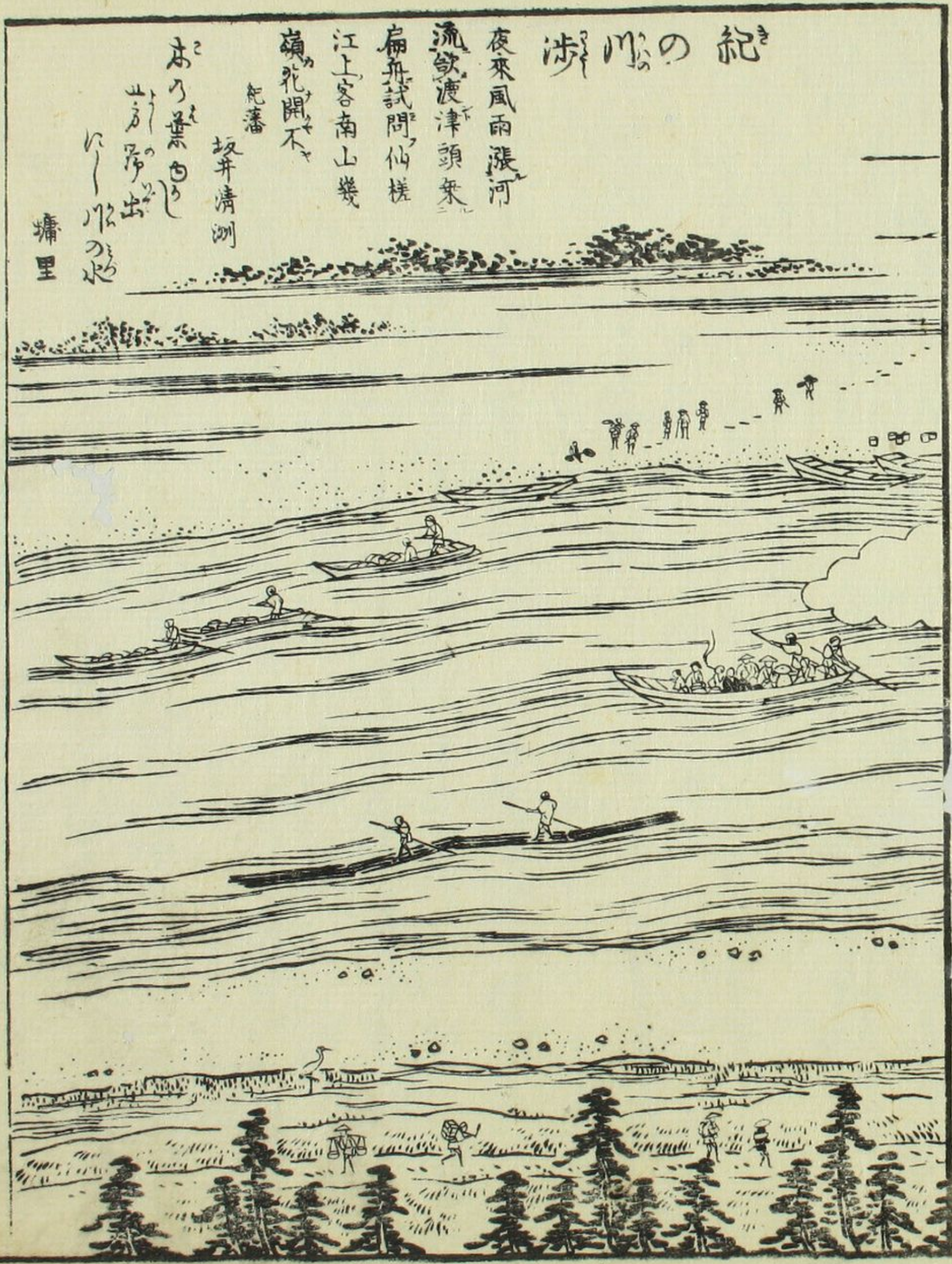
春

春

平泰時

紀の川の湖

夜來風雨漲河
流欲渡津頭來
扁舟試問仙槎
江上客南山幾
嶺花開不
能蕃
坂井清洲
おの曇り
山が岸出
いづれ水
壩里



夫本
今朝のりいゆへぬかぬあまのこひの川の上にあつらん 僧正のま
朝まのこひの川の上にあつらんあまのこひの川の上にあつらん 法橋のま

雪
氷上より一のこひの川の上にあつらんあまのこひの川の上にあつらん 肉衣のま

に
そのく雨はこひの川の上にあつらんあまのこひの川の上にあつらん 正徹

千
まのこひの川の上にあつらんあまのこひの川の上にあつらん 牡丹花

其角
たのこひの川の上にあつらんあまのこひの川の上にあつらん 本節

春日郎の渡り川岸首嶺
多田沼池

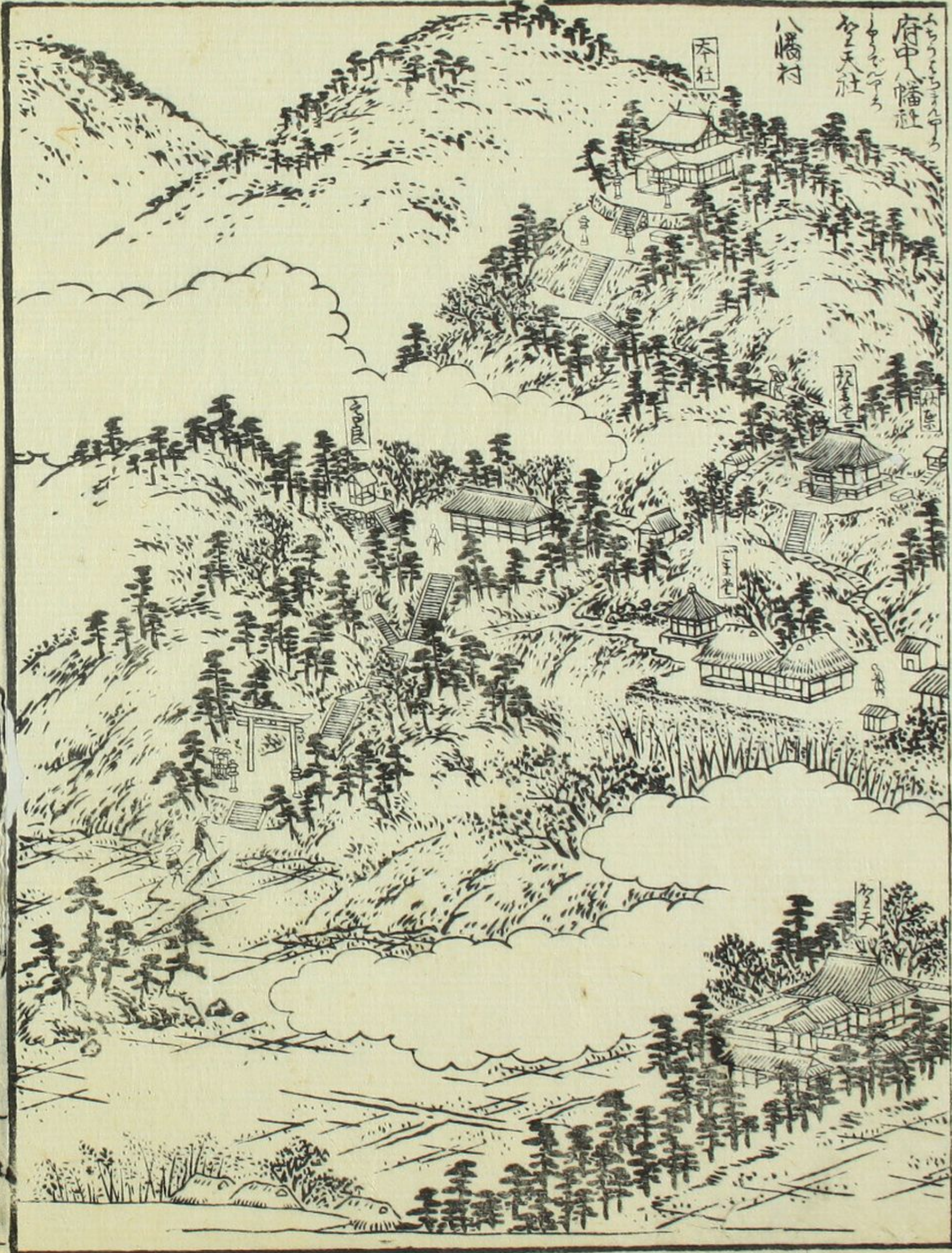
鶯鳴雨歇柳春心跨馬破霞追野禽潭水
其角

田井執約を夫教位中臣朝臣の末葉
星頭明神社 小島島村 あり 多神速日神 一木の氏神あり 毎春九月十八日に祭あり 野に

府中神社 貞観十七年冬十月奉授紀伊國從五位下府中神從五位上 府中神從五位上 府中神從五位上 府中神從五位上

八幡宮 分十六百を祀あり 府中社内の産神にて毎春 府中社内の産神にて毎春 府中社内の産神にて毎春

○神宮寺 櫻川山松嶺寺 本寺必意輪觀世音菩薩 本寺必意輪觀世音菩薩 本寺必意輪觀世音菩薩



全くはなごころに信じて居りて...
 山ありてはなごころに信じて居りて...
 山ありてはなごころに信じて居りて...

高良明神社

日村の南山の麓にありて

齒観音

初めに世にあらざりて...
 ありてはなごころに信じて居りて...

圓上寺旧地

右の山にあり

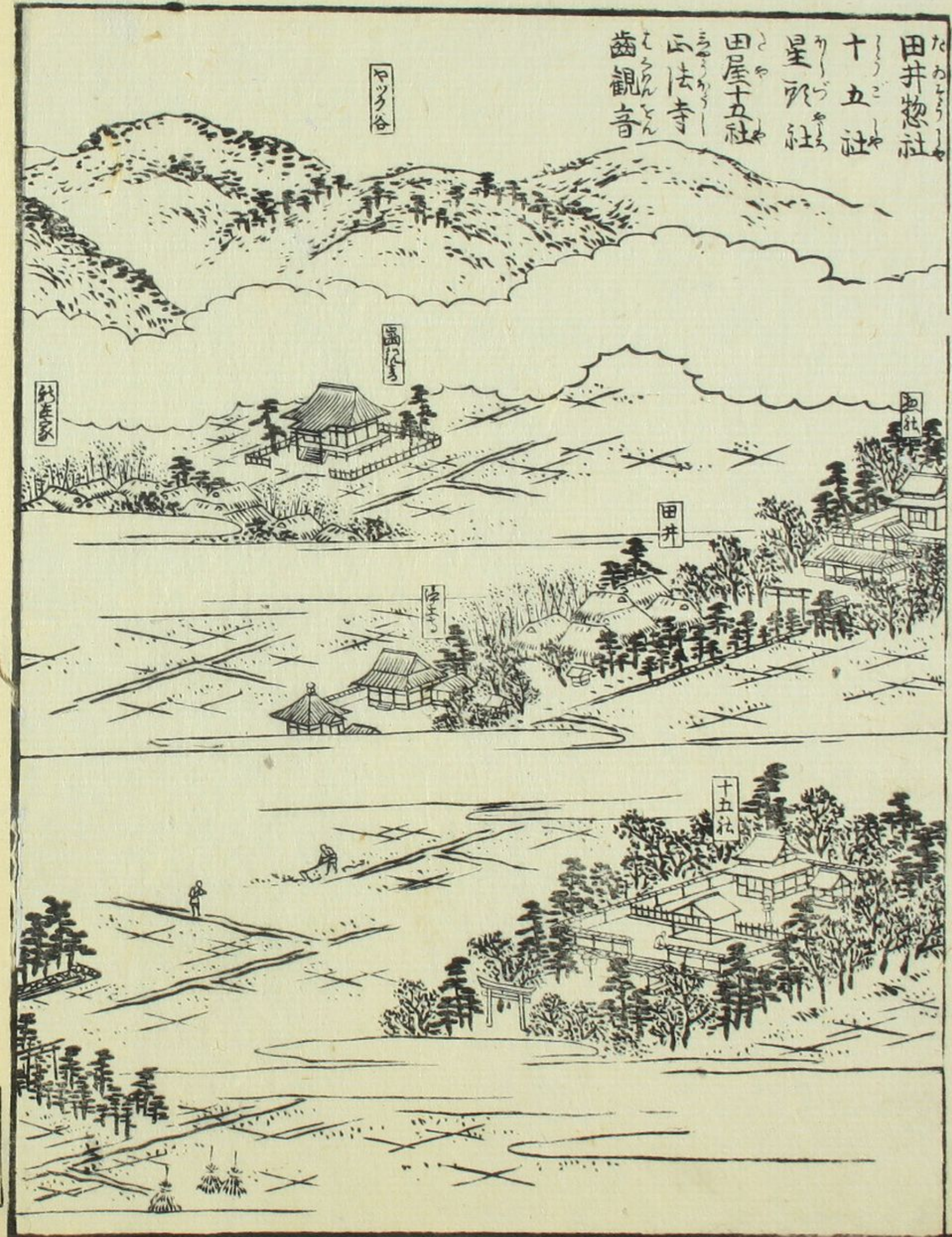
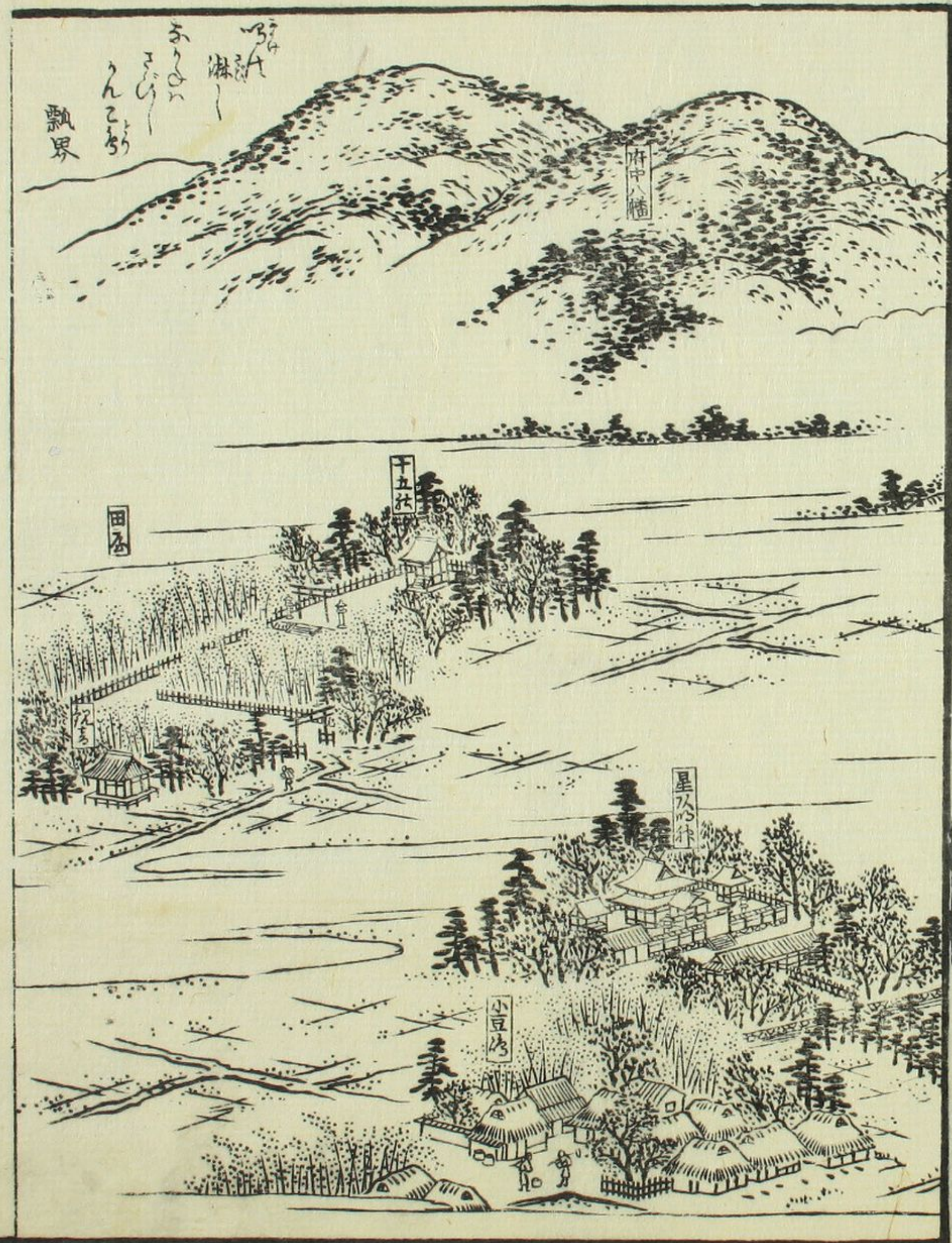
十五社明神

細屋村にありて 毎歲九月十七日 祭事あり

梅松山三法寺

日村にありて 本寺十一面観世音菩薩を祀りて

寺ありてはなごころに信じて居りて... 長年中はなごころに信じて居りて...



田屋助をま散位忌部宿林末集

高橋神社

田屋助をま散位忌部宿林末集 日村農家あり今、改名して森友なりと云、別傳署の
下、て連綿たり、様妻き、栗栖村、お梅丸の末に、人由

雲山峯天明神

雲山峯天明神 本山の古木の中心にあり、高橋連、鏡速日命、七世孫、大秋河命、之、海、あり、

高橋連、鏡速日命、七世孫、大秋河命、之、海、あり、

丹生神社

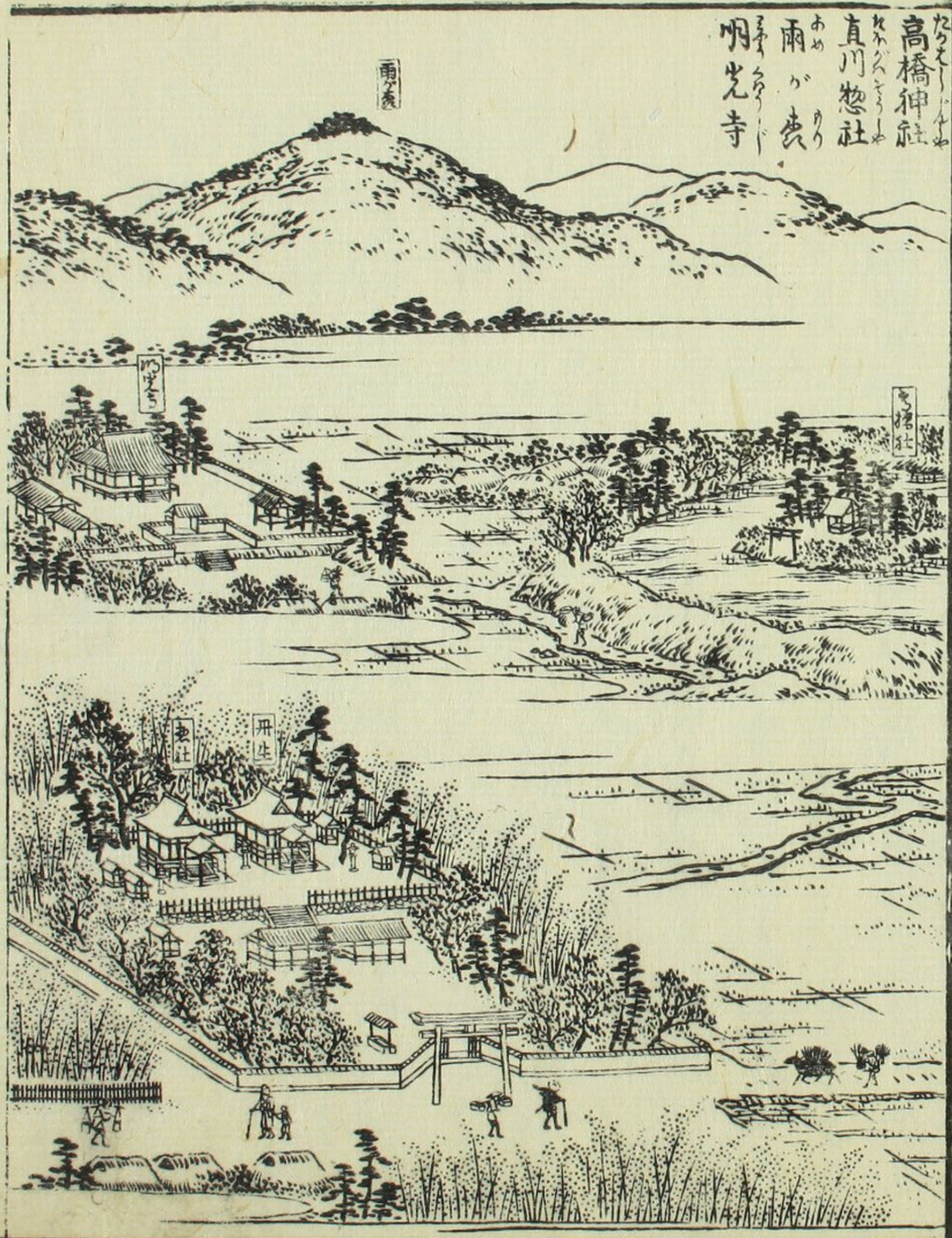
丹生神社 日村あり、村の南、丹生、あり、高橋連、鏡速日命、七世孫、大秋河命、之、海、あり、

總社明神

總社明神 丹生神社の南、丹生、あり、高橋連、鏡速日命、七世孫、大秋河命、之、海、あり、

照陽山明光寺

照陽山明光寺 日村あり、村の南、照陽山、あり、高橋連、鏡速日命、七世孫、大秋河命、之、海、あり、



高橋神社

直川惣社

雨が赤

明光寺

高橋連、鏡速日命、七世孫、大秋河命、之、海、あり、

建仁寺 日村あり浄土宗あり
世に上人の持のりし其の遺徳を傳へて其の早きありや
其の遺徳を傳へて其の早きありや
其の遺徳を傳へて其の早きありや
其の遺徳を傳へて其の早きありや

遍照山浄水寺

日村あり浄土宗あり
本堂あり阿弥陀堂あり

本堂千手觀世音
立像あり
六所権現社
鐘樓あり
僧坊あり
藥師堂あり
妙見堂あり

大福山奉惠寺

日村あり浄土宗あり
本堂あり

本堂千手觀世音
立像あり
六所権現社
鐘樓あり
僧坊あり
藥師堂あり
妙見堂あり
二王門あり
辨天社あり
藥師堂あり
妙見堂あり

一乃之後の住持にて辨天桓武天皇の崇教のそ像あり

十二年長五月勅使をよして御漢經の住持あり

具よりしふふ奉五十餘曲ありて辨天の窟

尊よりて寺を千手と號しり昔本七人童子の内弟二福集童

子 師子相伝述 出づる其は日州由良の奥園寺の因祖法燈圓師

感得のそ夢にうて法牙對を上人

移して徳宗の住持と僧坊都々十有二舎諸堂盡くあり

て山魏くせりうらう天の兵火不離はく一時小灰燼とるなり

室不慶長年間のもうとよるの隠士平塚哉中守入道久

智ある人夢想の靈驗ありて再興の檀越とあり資財と柅

て諸堂を造立し終る天む平中日蓮宗の高徳日忠上人



直川御恩寺

登天福山

香門幾歲相尋積
仙宇深寥鎖夕陽
衆豈攢岑望不盡
滿林霜葉隨風飛

坂井清洲

遠

極也

文考

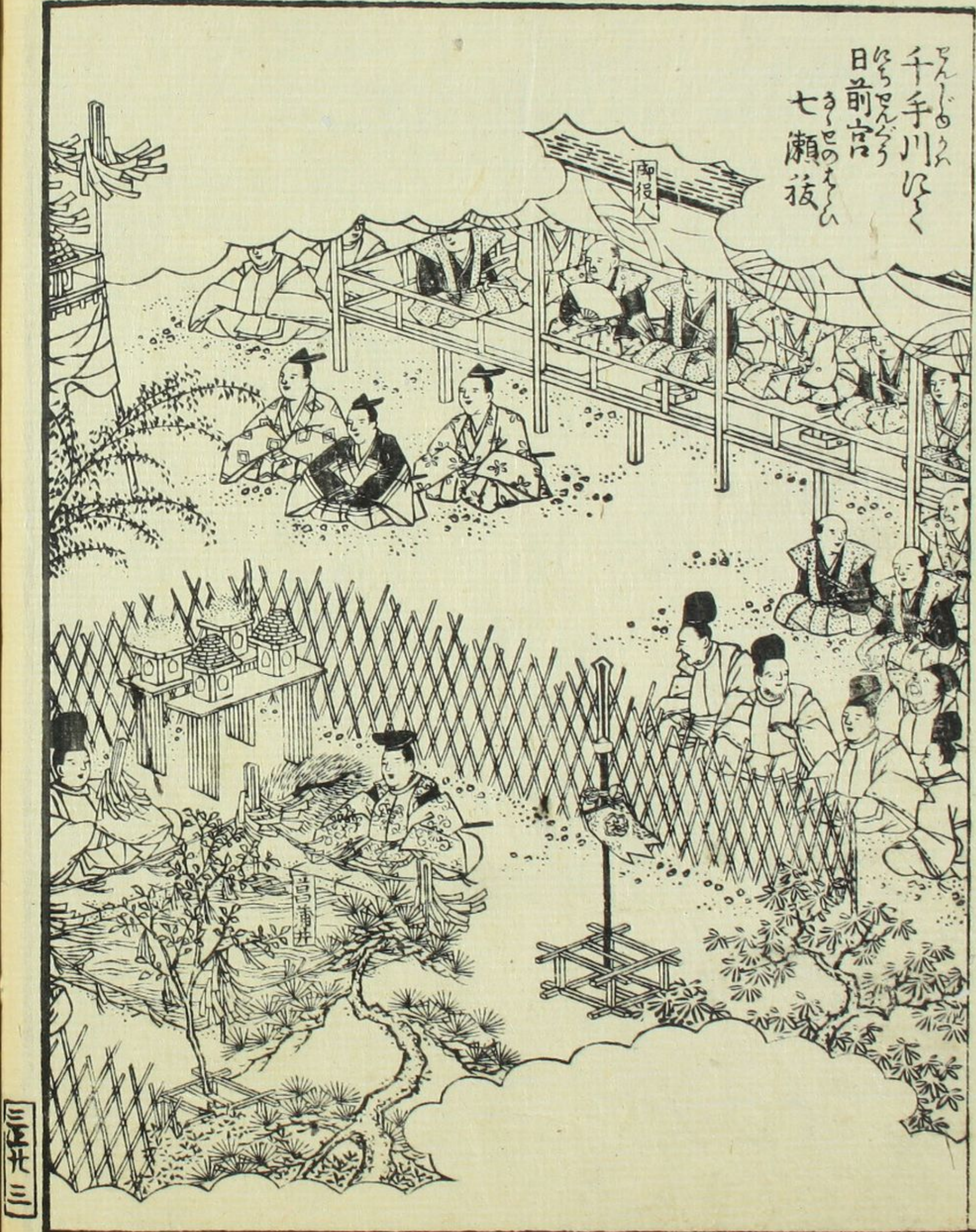
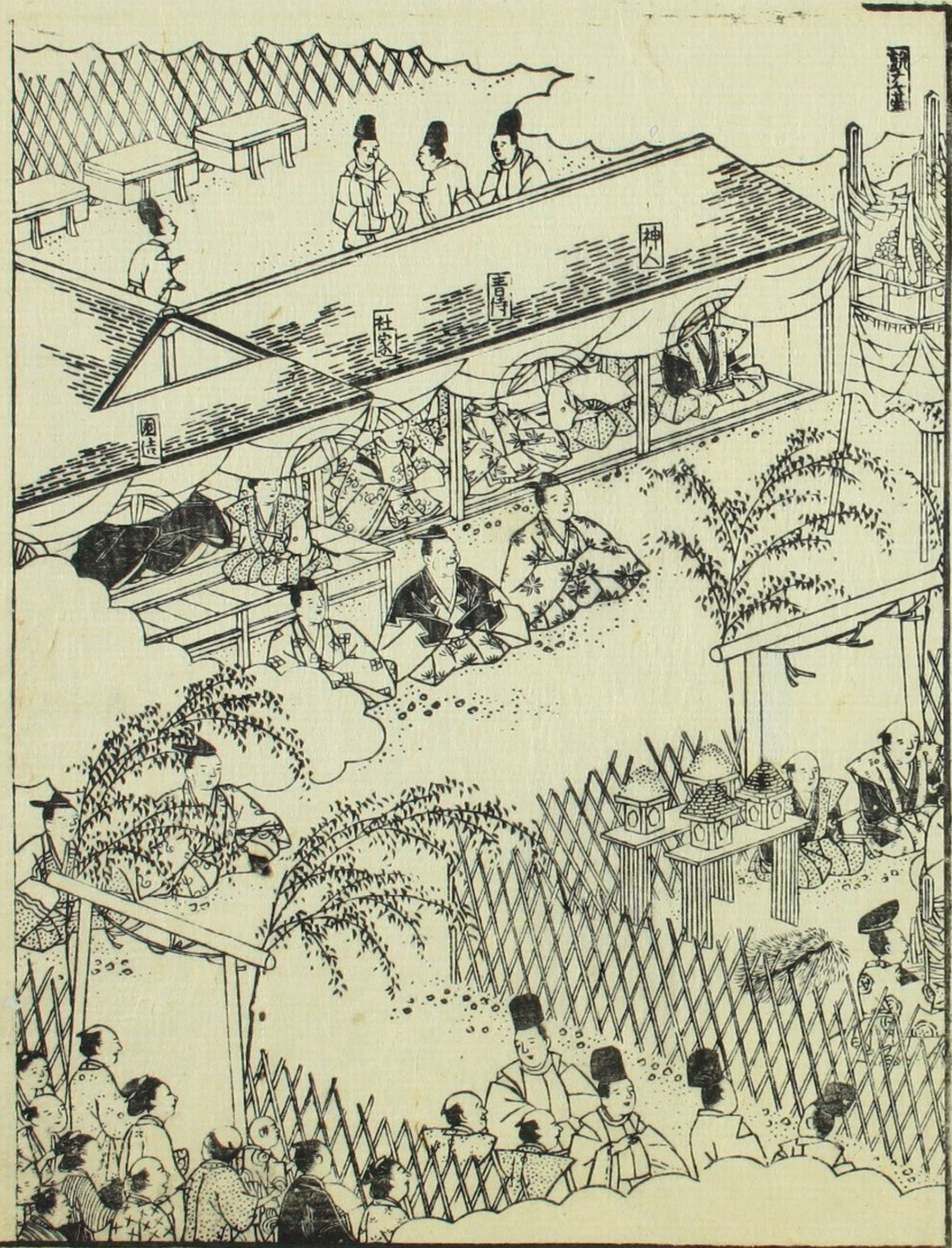
山中人這

かろ

さろ

仙化





千手川ひく
 日前宮
 七瀬夜

はるばる... 痛り... 山... 皇... 母... 直川... 役... 蔵王... 八王子...
はるばる... 痛り... 山... 皇... 母... 直川... 役... 蔵王... 八王子...
はるばる... 痛り... 山... 皇... 母... 直川... 役... 蔵王... 八王子...

直川助を文敏位紀朝臣の末葉
役の者母を石塔
蔵王権現社
八王子社

伊也云神社
山... 伊也云神社... 伊也云神社...

南敷山... 日吉山王権現社
南敷山... 日吉山王権現社... 南敷山... 日吉山王権現社...

握佛堂
握佛堂... 握佛堂... 握佛堂...

鳥羽院陵
鳥羽院陵... 鳥羽院陵... 鳥羽院陵...

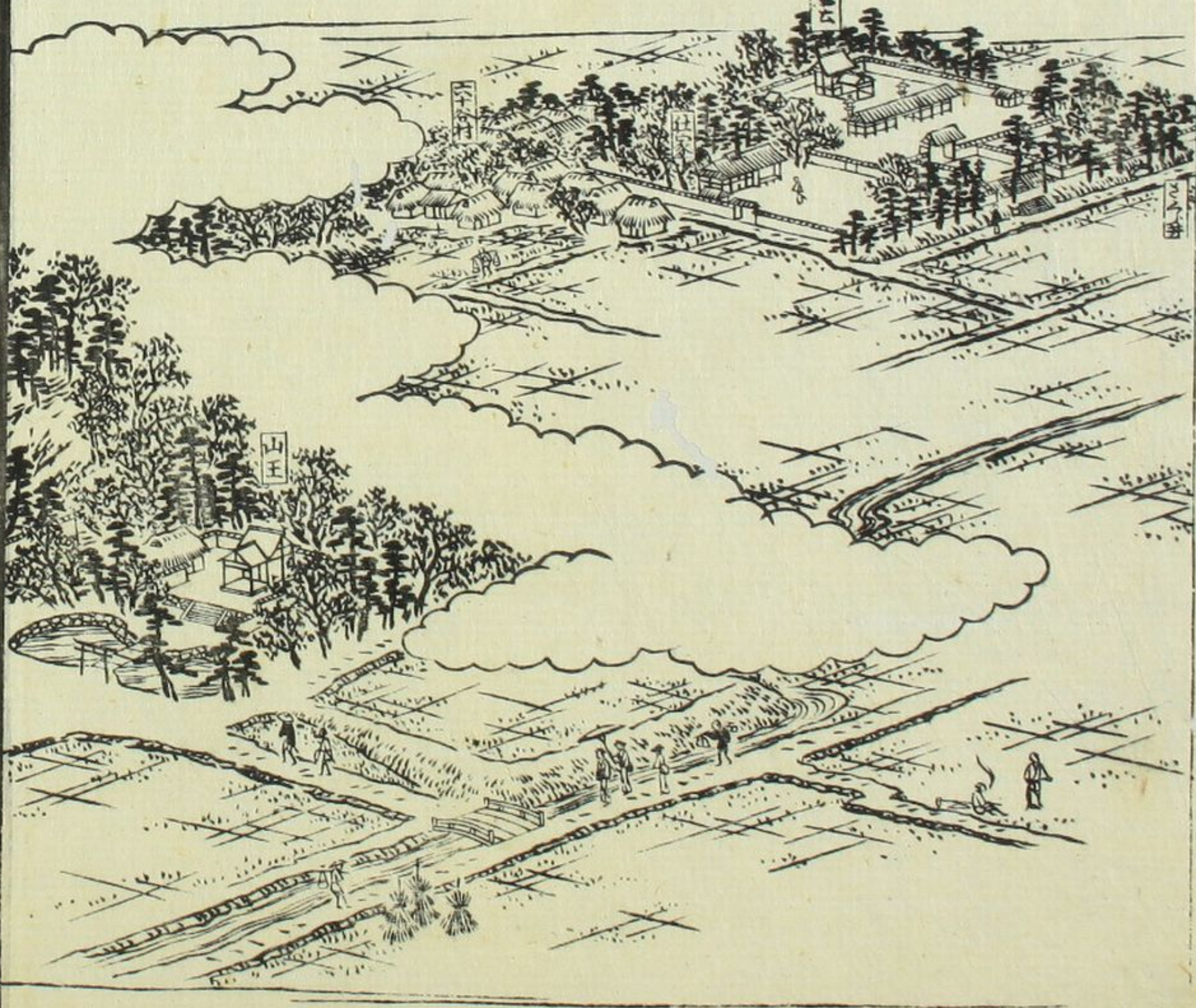
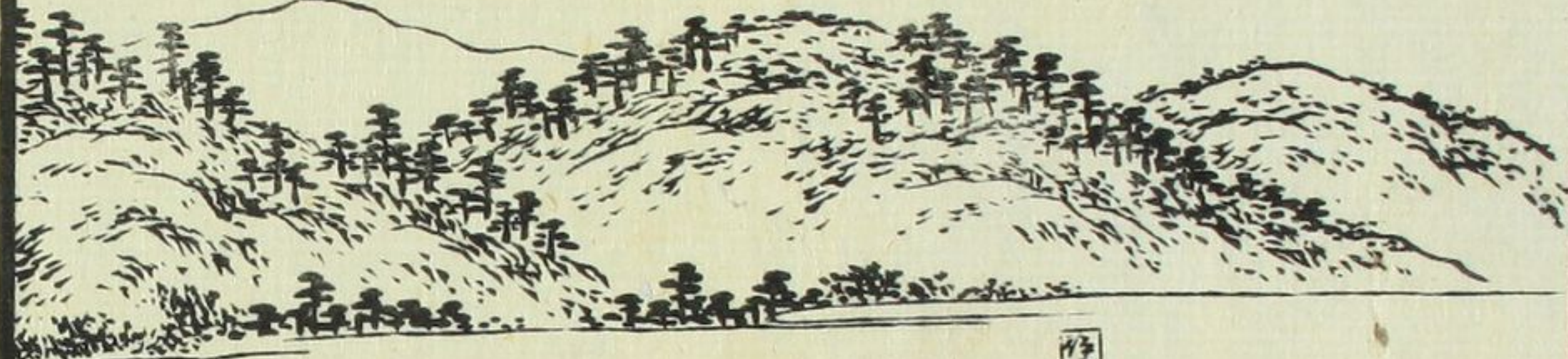
畧縁記
夫由山... 皇五十代平城天皇... 傳教大降...
畧縁記... 夫由山... 皇五十代平城天皇... 傳教大降...

岩のちまうら山岳をりりしに里巻送は後々峯亦出るく嶽の
松風颯々として毎朝の睡をさぬ一洞水滂々として煩惱の熱と
洗つら大師たよるこむせ玉ひ是必に神仙の悲栖仏陞の靈圖
かろふ一そむた具々天養を授く一字と象創一親く亦梅檀
をりて匠王菩提のる像と彫刻一是と安んて根中堂山ん
帝叡感はうらたれに南叡山大同寺法再院の勅号とて
たまふ其は不唐院の山仁所園梨大師の送跡とて
當山より入るいり佛園湖に造立一法再寺に大師立跡
の妙典と納め二味の妙なりとてく多く多宝塔の四塔の寶像
伶倫の樂を奏し一六楹の華幡舞人の袖翻るりてくは
継ぐは慈光大師道山はわらわら如法經瓜佛一わい釋迦多寶
普賢菩薩のる像と自刻一別院より安んて特樹と築く
六時の遷り小の會の曉を待常約堂より休院尊像二味の念

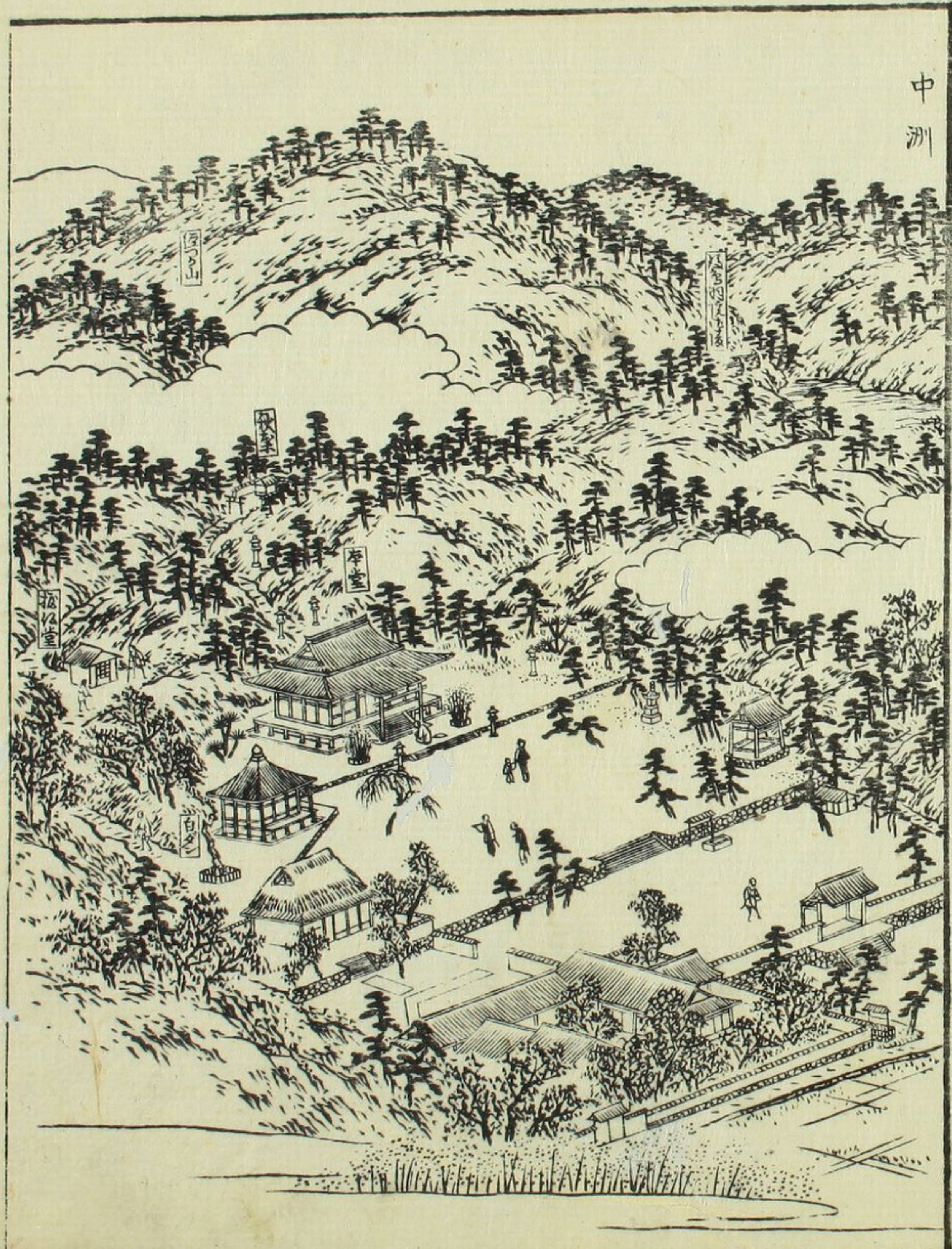
佛たゆらとたふし一萬神の社に伽藍の破壊を穿り山王の約
令法久住と行むるく五室の大塔より大日堂を安んて孫伽の
秘法と修し一切の輪藏より見本の書趣と結むしむ妙見
堂矣天堂と初し一左方の峯に之宗真言律律の三院瓜
起立一右方の峯より自ら書寫の法再と収め後塚山に名付
たる更し寂光都安養の三院瓜達く奥の境にたむるの
ちん嵯峨涼和の兩帝はびく沖歸依の叡と添く弘仁
はふん長の寺号とてい奉ふの三塔と表してはらに二さ
増立一各根奉法再常約の三堂と設けく魏々たる仏圖
畫とちるる右殿一美足下一莊嚴より都鄙の清人袂とて
ね縮素渴作のありとてい靈山の會儼然とて未未散せ
ざるかといもさるるかて案なるあまらびにて後鳥羽院の
御宇然野は業のあり園興とてく一わいて堂塔再奥の

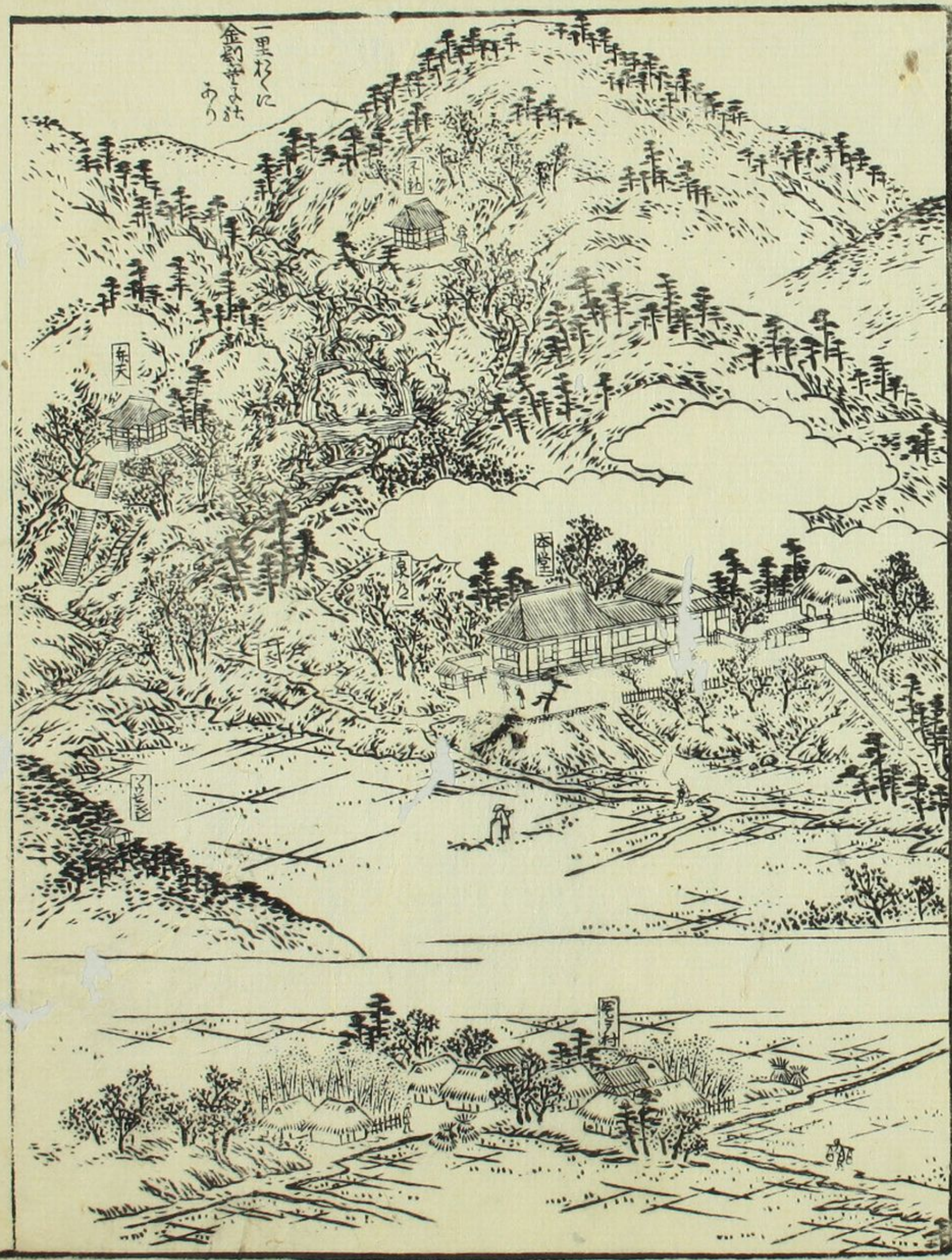
射止社
櫻井
大同寺

初冬遊大
同寺呈前
法印應公
真際祥雲
菴上方給
圓慧日照
高堂林楓
霜染錦成
雁籬菊秋
殘玉作鄉
山勢走空
連斗極江
光曳練遠
崇岡逍遙
不獨探靈
異靜坐偏
飲饗妙香

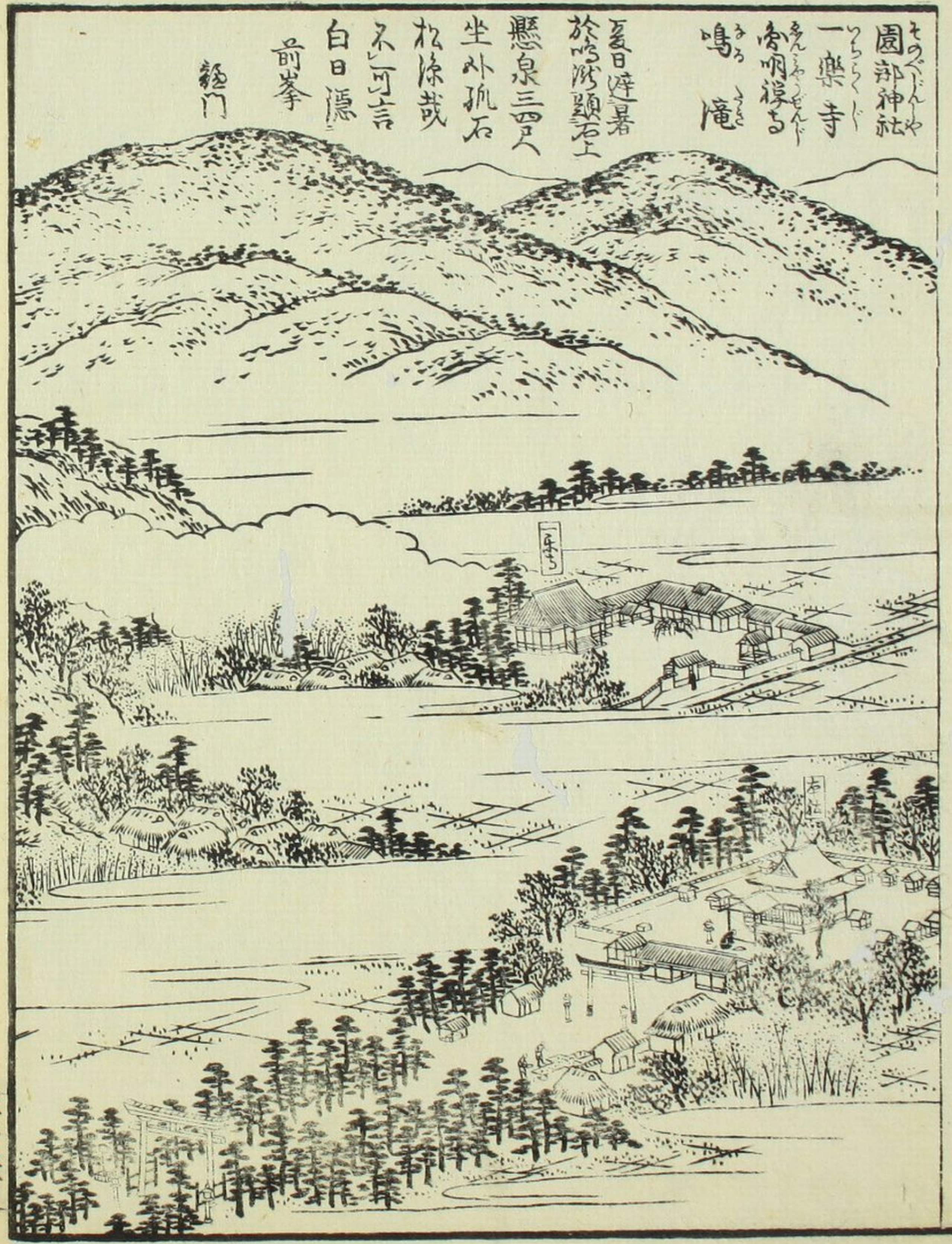


中洲



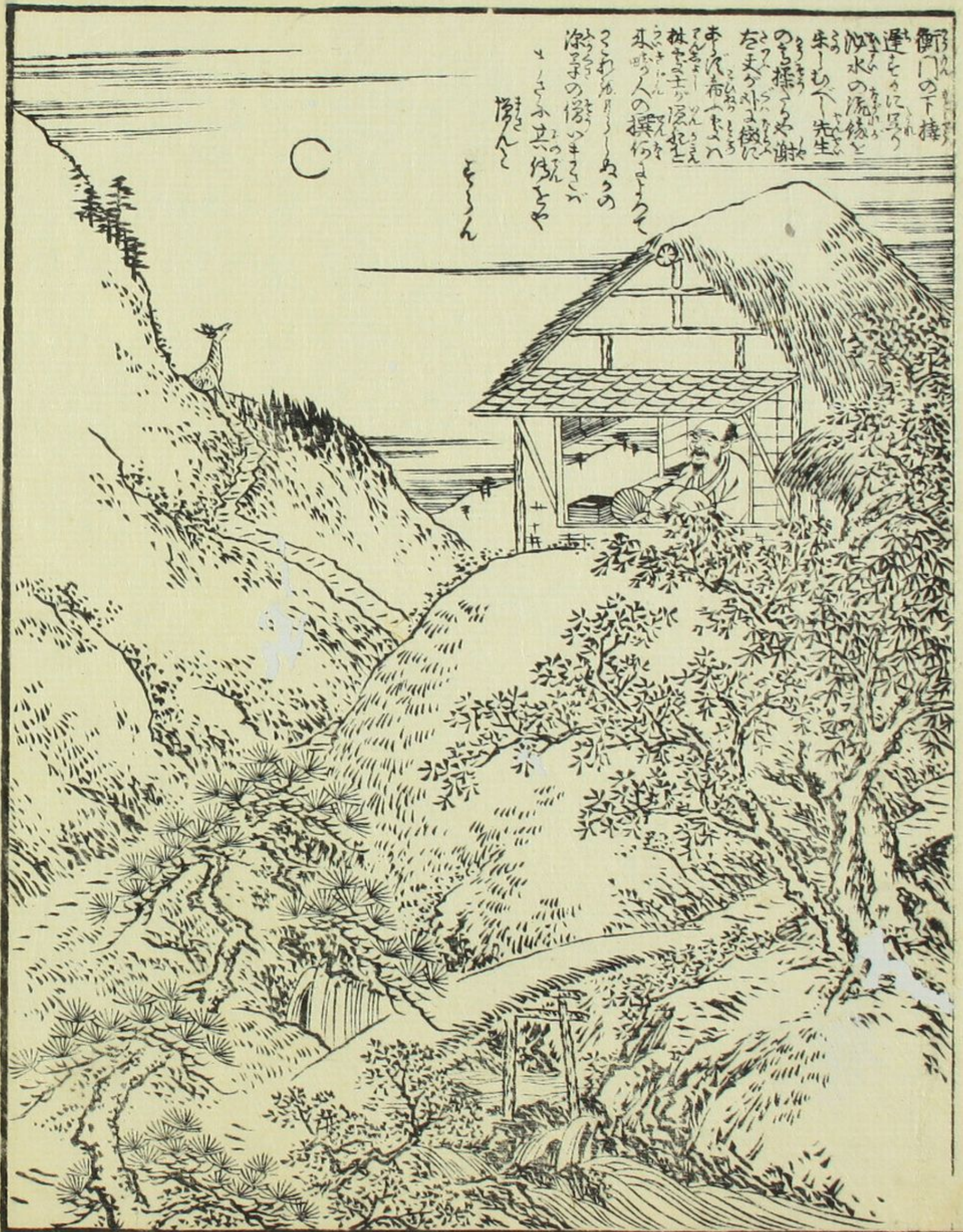


一里ばかり
金剛寺あり



圓那神社
一樂寺
鳴滝
夏日避暑
於此溪頭石上
懸泉三四尺
坐外孤石
松涼哉
不可言
白日隱
前峯
鐘門

御門の下
逢ふに
水の流れ
朱の
のち
を夫の
中
林
来
の
の
と
と



三十一

雪の穿ちて湧れ素雪珠と推て散らすよ奇絶の勝

地あり 地ありて人煙を絶し 寂寥たる山中に飛鳥の鳴き声は

ねりよと身にあはるゆゑあるたきの志しとむと恨らん

世にまをまの心ゆくはたかぬ世にまをまの心ゆくはたかぬ

世にまをまの心ゆくはたかぬ世にまをまの心ゆくはたかぬ

世にまをまの心ゆくはたかぬ世にまをまの心ゆくはたかぬ

世にまをまの心ゆくはたかぬ世にまをまの心ゆくはたかぬ

世にまをまの心ゆくはたかぬ世にまをまの心ゆくはたかぬ

世にまをまの心ゆくはたかぬ世にまをまの心ゆくはたかぬ

六帖 たる海の奥向のゆとけむし春のころ風吹けば吹たり 好忠

六帖 おだててある海は吹流のたれまて人魚あつていふと 益名

六帖 古給所はまらるゝと 具 眼 町 富天

六帖 吹流のまらるゝと 具 眼 町 富天

六帖 吹流のまらるゝと 具 眼 町 富天

六帖 吹流のまらるゝと 具 眼 町 富天

圓部兵衛重茂城趾

其地一里蓋葛之區別云云
其地一里蓋葛之區別云云
其地一里蓋葛之區別云云

海部郡

皇十七年十月... 皇十七年十月... 皇十七年十月...

九頭大明神

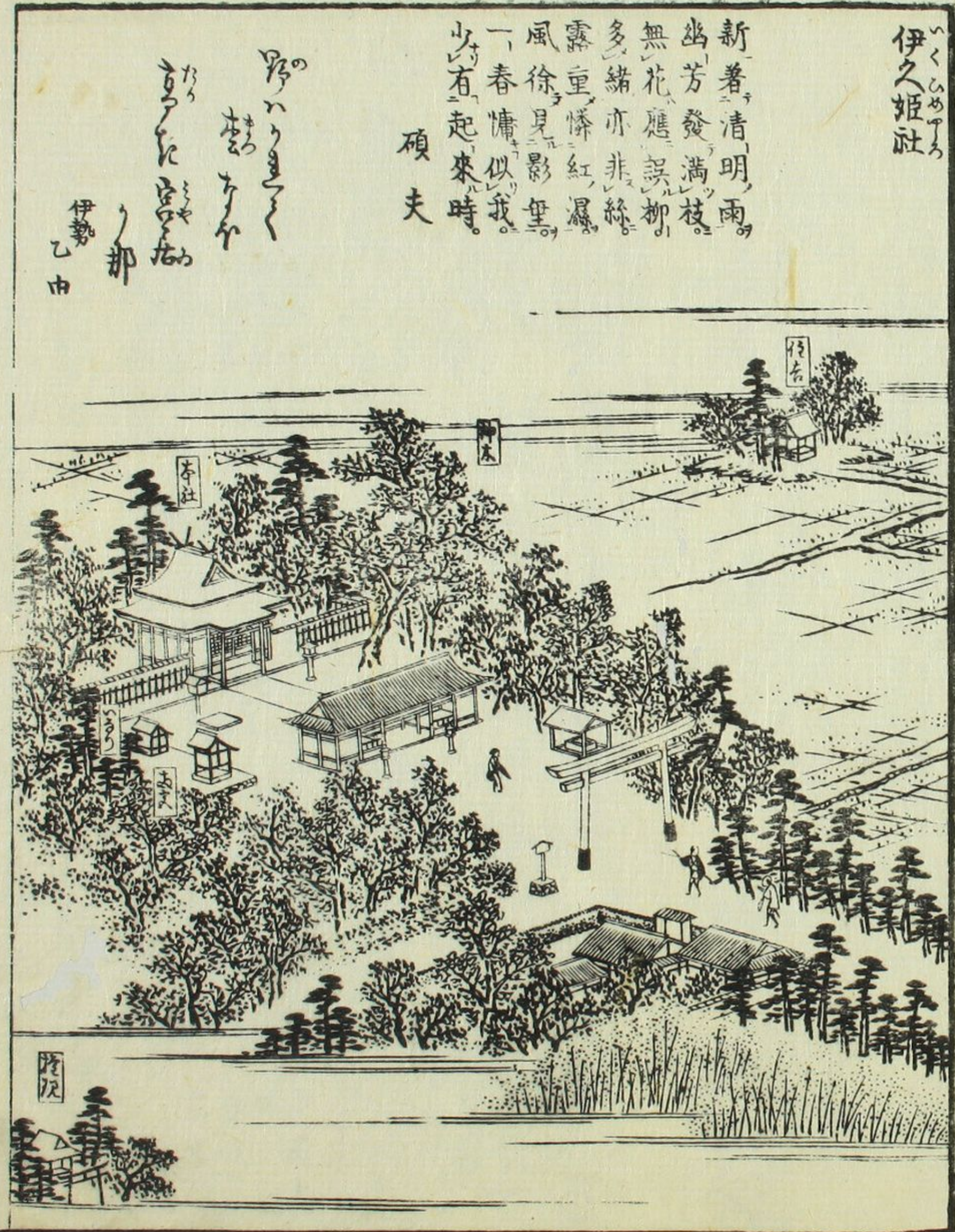
栗村... 栗村... 栗村...

一村の産神... 希代の古樹あり幹の太き三圍にあまう枝葉繁茂... 小瘤のま... 長く下り垂たり其最長

伊久姫社

新着清明雨
幽芳發滿枝
無花應誤柳
多緒亦非絲
露重憐紅濕
風徐見影垂
一春慵似我
少有起來時

碩夫



伊久
乙申

そのもの九尺余にたぐりて人呼ぶく研棒銀名との二奇
観とて入る

群芳譜曰。崑山縣志云。龍共猗。沐人殿中侍御史。扈從高宗南
渡。道經崑山。真義折銀杏一株。抽地祝曰。若此枝得活。吾於是
居。其枝長茂。後成大樹。繁枝蟠屈。腫如瘿。如乳者凡七十餘
顆。相傳為其子孫嗣世之數。時人異之。稱為龔遇仙樹。子孫遂

為崑山人云

市小松村

犯る神詳かゞ

此神名帳曰。久松村。社。奉神
從四位上伊弉諾命

一村の生去神にして例を毎歲九月廿三日にて生古大平宮字八
年異城宮なるの府藤原貞國の案として述討く此の神古

にやうく世にも賽幣くまらる恒例とあり

九頭神社

後考村

一村の産神なり例を毎歲九月十三日

辨財天社

後考村

月村にあり。社内に藤の古樹あり。幹を牛とて。二圍に

世の古樹あり。月村に藤の古樹あり。幹を牛とて。二圍に
みぐり。世の古樹あり。月村に藤の古樹あり。幹を牛とて。二圍に
家の氏とて。藤の本とて。みぐり。世の古樹あり。月村に藤の古樹あり。幹を牛とて。二圍に

休言間色賤。可貴殿餘春况復長松上。抱根得所親。垂縷欲

濯水向熱來依入正是朱明節檀場別麗辰

紀伊國名所圖會卷之三上終

